とうきょう　すくわくプログラム活動報告書

園名	明日葉保育園　西片園
日時	４月～３月

１．活動テーマ

＜テーマ＞

異年齢での関わりの中で、色の不思議さを探求しよう（１～５歳児）

＜テーマ設定理由＞

　昨年度のすくわくプログラムで、色をテーマに活動をしたことで、様々な色遊びに興味が深まっていた。クラスを超えて、異年齢で色遊びをする中で、気づきや興味も更に深まるのではないか、と思い、色をテーマに設定をした。

２.活動スケジュール

・毎月、「うれしいあそびの日（５歳児クラス命名）」として、異年齢グループで活動を行う。季節に応じた色遊びを経験する。

3.活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【素材や道具】
絵の具・筆・画用紙・のり・はさみ・セロファン
机・椅子・棚・ソファー

【環境の設定】
・色遊びを十分に落ち着いて遊び込める時間と空間の設定。
・異年齢での遊びや会話が深まる関わりと環境の設定。
・自分で選び取って遊びが広げられるよう、色や素材の準備。

4.探究活動の実践

＜活動内容＞

・絵本『わたしのワンピース』から、自分だけのワンピース探し
・ボディーペイント
・花火/クリスマスツリーづくり
・夏の感触あそび（寒天・春雨・氷など）
・スライム遊び

＜活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり＞

・様々な色遊びを経験することで、色で遊ぶ楽しさや不思議さを感じる姿が見られた。「これとこれを混ぜたらどうなるんだろう？」「この色、素敵だね。」などと、遊びの会話も広がっていた。

・季節に合わせて素材やテーマを変化させることで、四季を感じることもできた。

春は、自然の色を知ってほしいと、『すてきなワンピース』の絵本を用いて、自分だけのワンピースを自然の中で見つけた。
友だちや先生と、すてきなワンピースを共有する姿もあり、自然の中にも様々な色があることに気付いた様子だった。

花火づくりの時には、動画で花火を見てから制作をすることで、みんなでイメージを共有して取り組むことができた。

夏には、様々な感触も味わえるよう、素材を十分に用意をして遊びが広がった。保育者も子どもたちと一緒になって全身で遊びこむことで、子ども一人ひとりが安心して色遊びを行い、楽しさや不思議さを感じることが出来ていた。
「これって何で？」の疑問にも共感し、一緒に調べる姿も見られた。

・毎月、色について遊びを広げることで、「次は何やるの？」と楽しみにする声も聞かれるようになった。
また、異年齢での活動を広げることで、自然と異年齢の関わりも増え、絵本を見ながら色についての会話も広がる様子も見られた。

5.振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

・様々な色遊びを経験する中で、変化や色彩の面白さに気づき、遊びに夢中になる姿も見られた。そういった経験の中で、**感性**や**想像力**、**観察力**が育っていった。
・異年齢での活動を行うことで、年上の子が年下の子に教えたり、年下の子が年上の子に憧れを持って接したりする姿が見られた。色遊びを通して、**思いやり**や**共感性**などにもつながっていることを感じた。
・今後も、様々な色遊びを通して、**探求心**を深めていきたい。

とうきょう　すくわくプログラム活動報告書

園名	明日葉保育園　西片園
日時	５月～３月

１．活動テーマ

＜テーマ＞

「食」に関して興味を持ち、夢中になって遊び、発見しよう。（０～５歳児）

＜テーマ設定理由＞

　子どもたちの生活に身近な「食」をテーマにすることで、五感を活用した豊かな体験を通し、主体的な探求心や健康な心身の育ちを促すとともに、食への関心や感謝の気持ち、社会性の基盤を育むことを目的とした。

２.活動スケジュール

・様々な食材に触れることで、五感で感じる経験をする。
・遊びを通して、食への興味を広げていく。
・年齢に応じて見立て遊びをしながら、想像力を膨らませていく。

3.活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【素材や道具】
様々な食材・食材の端材・おままごと・机・椅子・食育備品

【環境の設定】
・季節に応じた様々な旬の食材に触れる機会を設ける。
・毎日、給食食材から出る、野菜の皮やヘタをクラスに持っていき、おままごとで遊ぶ。
・キッチンなどの環境を設定することで、遊びの幅を広げていく。

4.探究活動の実践

＜活動内容＞

・食材の実物体験
・給食食材の端材を使用したおままごと（SDGs）
・おままごとで見立て遊び
・三食食品群や食材の栄養について知る

＜活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり＞

・毎月、旬の食材を触れる機会を設けることで、関心が高まり、給食献立で提供すると、「食べたい」「食べてみたい」につながることも多かった。

・給食食材の端材を毎日給食室からもらい、おままごとの包丁・まな板で切ったり、ちぎってお皿に入れたり、シンクで洗ったり、遊びの幅も広がった。
匂いや感触も感じることができ、五感も育まれた。

・本物に触れる経験を通して、様々な素材をおままごとに取り入れることで、見立て遊びも広がった。
０～５歳児でおままごとが充実し、クッキングなどの実体験も経験する中で、作ることや食べることへの意欲が高まっていった。

・３歳児は、苦手な食べ物を、子どもたちの前でライブクッキングをして提供することで、「食べてみよう」と意欲が高まり、残食が減った。

・４歳児は、種への興味が深まり、様々な食材の種を収集し、レジンで固めて標本としてコレクションをしている。

・５歳児は、食材の性質や栄養に興味が高まり、三食食品群や栄養バランスを知る機会を設け、栄養バランスを考えた献立作成を経験した。

5.振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

・身近な食材に触れる機会をたくさん設けることで、**感性**が高まり、**好奇心**や**探求心**が増していくことを感じた。
・環境を用意することで、子どもたちの遊びはどんどん広がり、**想像力**を膨らませて遊ぶ姿が見られた。ワクワクした遊びの中で、発見を共有しあったり、楽しさを共感しあったりする経験を通して、**協調性**や**共感性**、**道徳性**にもつながっていった。
・子どもたちの声から、遊びや経験につなげていくことで、興味・関心は、どんどん深まっていった。これからも、子どもたちの興味・関心に気づき、声を拾って、食への探究を深めていきたい。

とうきょう　すくわくプログラム活動報告書

園名	明日葉保育園　西片園
日時	１月～３月

１．活動テーマ

＜テーマ＞

お茶って何の仲間？日本文化を体験しよう。（５歳児）

＜テーマ設定理由＞

「食」をテーマに、すくわくプログラム活動を行っている中で、三色食品群を学んでいる際、「いつも飲んでいる麦茶って、赤？黄？緑？どの仲間になるんだろう？」「麦だから赤？」「お茶だから緑？」とお茶に対して興味を持ち始めたため、日本文化体験につなげて深めていきたいと思った。

２.活動スケジュール

・三色食品群を学ぶ。
・お茶の飲み比べをして、五感で感じる。
・和菓子など、日本ならではの文化を感じる。

3.活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【素材や道具】
三色食品群の絵本やカード・お茶評価シート・和菓子スケッチシート
茶葉（玉露・煎茶・ほうじ茶・玄米茶）・和菓子・茶器・急須・懐紙
椅子・机・マット

【環境の設定】
・お茶の飲み比べは、色や香りを感じられるよう、透明カップを用意する。
・日本文化体験時には、和の雰囲気の環境を作る。

4.探究活動の実践

＜活動内容＞

・４種類のお茶を飲み比べし、どれがおいしいか、チャートに記入する。
・季節の和菓子を近隣の和菓子屋に買いに行き、色彩の美しさに触れる。
・飲み比べで美味しかったお茶と和菓子を一緒にいただく。（正座を経験する）

＜活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり＞

・お茶を４種類（玉露・煎茶・ほうじ茶・玄米茶）用意し、味と香りを各自で５段階評価をした。「ほうじ茶はいつも飲んでいる味！」「玉露は甘い！」などと、好みや感想を伝えあう様子が見られた。

・玉露の評価が高く、和菓子に合わせる際のお茶に決定。
後日、和菓子屋さんに和菓子を買いに行く。
そこで、季節の和菓子があることを知る。
「かわいい」「きれい」と練り切りの繊細さに気付いた。

・園にて、練り切りの観察画を行う。
「ここ、どうやって描いたらいいの？」と最初は難しさを感じていたようだが、色合いや形など、よく見ながら自分なりに表現することが出来ていた。

・お茶会の環境を設定し、子どもたちを招待。
好みの茶器と練り切りを選び、玉露と合わせて日本文化を体験する。
マナーや伝統についても知る機会となった。
「お茶おいしい！」「もっと飲みたい！」と和菓子と合わせるおいしさを感じたようだった。
正座が難しい子もいたが、良い経験となった。
お茶会直後、穏やかな空気が流れ、ホッとするという感情を感じられた。

・その後のおままごとでも、お茶会ごっこが開かれたり、言葉遣いが変化したりする様子も見られた。

5.振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

・正座をする機会がなかなかないので、今回の経験を通して、体幹保持の大切さに気付くことができた。
・子どもの声から、興味や関心を広げる環境を用意することで、子どもたちの**好奇心**は深まり、そこから、**感性**や**探究心**の向上につながることを感じた。
・和菓子屋に買い物に行くなど、近隣の様々な環境とのつながりを通して、地域に親しみを持ち、社会とのつながりを意識する**社会性**が身につくきっかけとなった。
・日本文化を体験することは、日本の**伝統**や**四季の移ろい**を感じ、**感謝の心**、**礼儀作法**を育む大切な機会なので、今後も続けていきたいと思った。